

学校図書館を考える・シリーズその8

専門・専任の司書のいる学校図書館

宇都宮市の場合

私たちは子どもたちの豊かな読書環境を保障するために、専門・正規・専任の司書のいる学校図書館をめざして活動を続けています。

しかし、昨今の財政事情、あるいは考え方の違いゆえなのか、子どもたちの大きな読書環境の一つである学校図書館に、専門・正規・専任の学校司書の配置はなかなか実現しません。

そんな中であって、宇都宮市では平成18年に専門・専任の学校司書の全校配置に踏みきりました。正規職員としての採用ではなく、身分的に不安定な面もありますが、専門・専任の学校司書が入って4年目、宇都宮市の学校図書館がどのようになりに豊かになっていったのか、ここで見てみたいと思います。

栃木県の場合、司書教諭は12学級以上の規模の学校には全て任命されています。

しかし、学校図書館を運営するに必要な専門・専任の司書の全校配置は、宇都宮市と芳賀町を除いてはありません。県内で子どもたちに教育格差がでています。

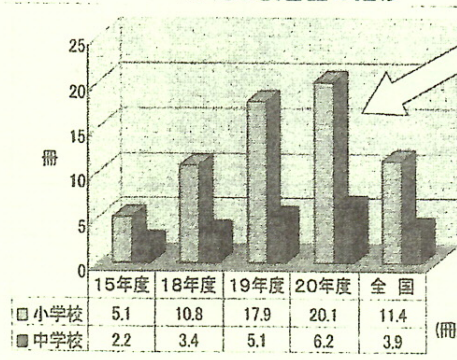
宇都宮市の専門・専任の学校司書全校配置をモデルにして、他の市町に広がる事を願ってこのリーフレットを作りました。未来を託す子どもたちに豊かな読書環境、学習環境を整えて手渡してやりたいと願っています。

宇都宮市の学校司書採用形態

- 非正規採用・月給172000円
- 週5日勤務・6時間勤務・1校1人勤務
- 単年度雇用(最長5年契約更新可)

宇都宮市の小中学校の読書量は、全国平均を大きく上回っています!

* 1か月の読書量の推移



全国平均と比べると

小学生は 1.8倍
中学生は 1.6倍

- ☆行きたくなる学校図書館に、読みたくなる本をそろえています!
- ☆読み聞かせ会、読書集会など、本に親しむ活動を積極的に実施しています!
- ☆授業の中で積極的に図書が活用されるように取組んでいます!

☆宇都宮市「学校図書館に関する調査」の結果から

専門：司書であること
正規：正規採用であること
専任：学校図書館司書の仕事だけでなく他の仕事を兼務しないこと

《宇都宮市における「司書教諭」と「学校図書館司書」の
実際の役割分担はどうなっているのでしょうか?》

◎…主務 ○…補助

職務内容		司書教諭または 学校図書館主任	学校図書館司書
1	学校図書館全体計画（読書指導を含む）立案	◎	○
2	学校図書館の管理運営		
	(1) 図書の管理		
	配架		◎
	蔵書点検		◎
	補修		◎
	廃棄	◎	○
	(2) 図書の購入		
	購入計画・選書	◎	○
	選書資料の作成	◎	○
	発注	◎	○
	受入れ		◎
	データ入力		◎
	図書の装備		◎
	(3) データ作成管理		
	児童生徒データ		◎
	書誌データ		◎
	貸出データ		◎
	(4) 環境整備		
	掲示物作成		◎
	本の紹介等		◎
	(5) 貸出・返却業務		
	貸出・返却の実務	○	◎
	(6) 広報活動		
	図書館便り等の立案	◎	○
	(7) 委員会の指導	◎	○
3	読書指導		
	(1) 読み聞かせ・ブックトーク	○	◎
	(2) 図書館利用指導	○	◎
	(3) 読書相談	○	◎
4	学習支援		
	(1) 各教科等との連携	◎	○
	学習支援の推進（学習 指導主任との連携）		
	(2) 資料の作成・収集	○	◎
	学習資料の作成・収集		
	(3) 資料の整理・配架	○	◎
	授業への情報提供		
5	公共図書館との連携		◎
6	ボランティアとの連携		
	読書活動計画立案	◎	○
	連絡・調整・実務	○	◎

※起案は、司書教諭または学校図書館主任が行う
☆学校によって、主務・補助の分担は多少異なります

学校図書館司書研修

宇都宮市では、学校図書館司書導入に際し、合わせて司書研修のプログラムを立てています。

- ・ 学校図書館運営に関する研修が年10回
- ・ 司書と司書教諭合同の学校図書館活用に関する研修が2回

・ ブックトーク等の実技研修が1回

その他に、各学年ごとのお薦め本を紹介する巡回図書システム等、一人しか配属されない司書をいかに育てていくかということまで、しっかり配慮した研修プログラムが組まれています。

司書の仕事は、資格を取ったときは始まりにすぎないので、この養成プログラムは素晴らしいと思います。

学校図書館司書導入から4年経った今、学区単位の司書さんたち独自のグループ研修にまで発展しているそうです。

H21. 3. 25版

月	日	曜	内 容	該 当 者	内 容
4	1	水	辞令交付及び研修①(サービス一般) ・継続任用者 ・新規採用者	継続任用者 新規採用者	・サービス一般 ・第2次読書活動推進計画
	6	月	*研修②(学校図書館運営の基本)	新規採用・希望者	・運営の基本、先輩司書の講和(実務面) ・配送システム
			研修③(学校図書館運営)	全員	・講話(選書、レファレンス、心構え) ・今年度の研修について
	20	月	*研修④(蔵書管理ソフト実技)	新規採用・希望者	・運営実務とシステムの運用
			研修⑤(授業支援の在り方)	全員	・学校規模、校種別協議(現状と課題)
5	8	金	学校図書館活用研修Ⅰ	学校図書館司書 司書教諭等	・実践報告(45分)・講話(90分) ・選書(追加分)、配送システム(45分)
夏季休業中			研修⑥(地域学校園間交流)	全員	・地域学校園での他校参観、情報交換 (ブックトーク練習、環境整備の取り組み)
8	24	月	研修⑦(学校図書館運営)	全員	・実践発表と講話(レイアウト、掲示物の 実際、図書館便り) ・校種別協議(取り組みと課題)
	25	火	*研修⑧(蔵書管理ソフト実技)	新規採用・希望者	(2班に分かれて実施) 蔵書点検の器具の取り扱い、QA対応
	26	水	〃	〃	
10	14	水	☆ブックトーク等実技研修	希望者 学校図書館司書 司書教諭 図書ポラ等	・ブックトークについて ・グループ実技研修
10	27	火	学校図書館活用研修Ⅱ	学校図書館司書 司書教諭等	・司書と司書教諭との連携 ・授業実践の記録A4裏表1枚持参
2学期中			研修⑨(地域学校園間交流)	全員	・地域学校園での他校参観、協議 ・授業支援の在り方
2	19	金	研修⑩(総括)	全員	・今年度のまとめ

*は新規採用・希望者対象研修、☆は市立図書館主催行事(希望者対象)

中 2 理科「動物のくらしとなかま」(一条中)

校種・学年 [一条中学校・2 年]

教科・題目 [理科・動物のくらしとなかま] 担当者名 [小林 順子]

学習内容 動物の生活のようすや体の特徴を調べ、動物の分類とその特徴を理解する。

1 単元の指導計画・単元構成等 (3 / 8 時)

2 本時の目標

- ・動物の生活の様子と体のつくりには、密接な関係があることを理解する。
- ・特徴の違いにより、5つのなかまに分類できることを知る。

3 本時の概要

◆…教諭

◇…司書

学習活動	指導上の留意点・評価等
1. 本時の活動内容の確認	◆ カードに書かれている動物について調べ、その動物の生活の様子や特徴をもとに分類していくことを説明する。(サケ、カエル、イモリ、ヤモリ、ニシキヘビ、カメ、ペンギン、クジラ、カモノハシ、シマウマなど 30 種の動物カードを提示)
2. 資料の活用方法の確認	◇ 活用する資料に本校の図書と市立図書館の図書があることを伝える。(事前に活用図書は別に用意しておく) ◇ 資料の目次と索引の活用について説明する。 ◇ 百科事典を活用することで、動物の分類や概要がつかめることを説明する。 ◇ 準備した資料で不足を感じる生徒は、直接本棚から資料を探すことを伝え、資料の場所・分類記号について説明する。
3. それぞれの動物について調べノートにまとめる	◆ 分類困難なグループへの指導 ◇ 資料を見つけられない生徒への支援。 ◇ 資料(百科事典や分類別の資料)の活用方法を個別に支援。
4. 動物を分類し発表する(グループ発表を聞き共通理解を図る。)	◆ 動物を分類ごとに分けさせ、特徴や理由付けをグループごとに発表させる。分類ができない生徒への助言・支援。
5. 本時のまとめ	

4 備考

- ・担当教諭に課題解決のために必要な資料の種類や量について相談する。(授業で使うワークシートや課題について教えてもらい、課題解決に必要な資料収集に努める。不足資料の補充をする。)

成果○・課題▲

- 本校の蔵書に加え、市立図書館の資料を活用したことにより、昨年度より充実した資料の中で、調べ学習を進めることができた。
- 司書の授業参加により、資料の活用方法を学ばせながら、動物の分類について調べ学習ができた。
- 分類(魚類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類)について、より深い知識を学ばせることができた。興味関心を保ちながら、授業を進めることができた。
- ▲ 課題解決に必要な、より適切な資料収集が必要。複本の必要性も感じた。

学校図書館司書の授業支援実践例

小5国語「マザー・テレサ」(富屋小)

校種・学年 [富屋小学校・5年]
教科・題目 [国語・マザー・テレサ] 担当者名 [教諭 半田 祥正]
学習内容 『 マザーテレサ (伝記) 』

【本時の概要】

- 教科書題材「マザー・テレサ」でマザーの生き方や考え方を読み取る学習を進めた後、自分の選んだ伝記を読み進め、読み取ったことや考えたことを本のカードにまとめて紹介する活動へ展開させていく。

＜伝記を選ばせる過程において～司書との連携＞

- ① どんな人物・ジャンルの伝記をそろえたいかについて、担任と司書が相談し、資料選定にあたってもらう。(学校図書館に加え、市立図書館図書も活用)
- ② 担任の意図もあり、児童にとってなじみのない人物の伝記が多数あった。著名な人物に児童の人气が集中することが懸念されたため、司書の提言で全冊分「ポップ」を作成してもらい、本の紹介の方法として用いることにした。児童はポップのついた資料を一通り見た後、興味を持った伝記を選定することができた。

担任成果○・課題● / 司書成果◇・課題◆

- ブックトークでは全冊の紹介は時間的に無理があった。ポップをつけてもらうことですべての資料にもれなく紹介が付き、児童が本を選ぶ際の大きな手助けとなった。また児童が思わず興味を引くような内容のポップを作ってくれたので、著名な人物でなくとも紹介にあった生き方・考え方に惹かれて作品を選ぶ児童が多数出て、希望が重複してしまうようなことがなかった。
- 児童の中にはポップの手法を生かして「ブックカバー」の本の紹介を仕上げているものがいた。自由読書をするときに「ブックカバー」に書かれていることを参考に本を選んでいる姿も見えた。
- 20名学級だったので、ポップも20余で済んだが(それでも大変な作業だったと思うが…)40名弱の学級もあるので、毎年少しずつ増やしてもらえればと思う。
- ◇普段、読書の難易度をページ数や文字の大きさ、本の厚みなどで測ってしまう児童もいる中、簡単なポップを付けることは、そのような先入観に左右されることなく、書かれた人物や内容のおもしろさを基準に本を選ぶ手助けになったのではないかと思う。
- ◆伝記に関心が薄かったり読書が苦手な児童にも興味をもってもらうため、歴史的“偉人”だけでなく、自分たちにも身近な有名人(手塚治虫、カネ・サンダースなど)のものも用意したが、もう少し多様なジャンルの伝記を数多く揃え選択肢を増やしてもよかったのではないか。(本をなかなか選べない児童は、最後余ったもので行っていたので)

学校図書館に専任の司書がいると・・・宇都宮市の場合・・・

「宮つこ」の読書量急増

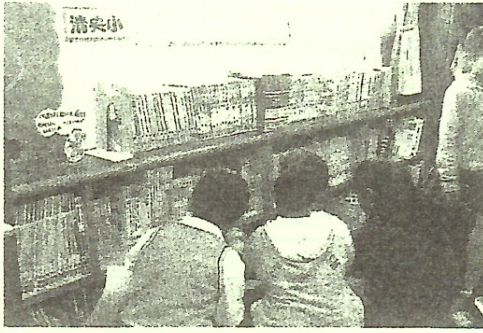
小学3.5倍
中学2.3倍

4年間で

【宇都宮】児童生徒の読書離れや読解力の低下が懸念される中、本年度の「宮つこ」の一月平均読書量が二〇〇三年と比べ小学生は三・五倍、中学生が二・三倍に急増したことが、市教委の「学校図書に関する調査」で分かった。市教委は「ぬか喜びをせず、今後も読書の質を高めたい」としている。

(外山雅子)

宇都宮市 教委調べ 司書配置が奏功



宇都宮市立清原中央小の図書室

調査は昨年十一月、市内の小・中学校で各学年から一学級を抽出しアンケートを実施。一月分の読書量、学校図書館の貸出冊数や一日の平均入館数などを調べた。漫画や雑誌を除いた一月分の読書量は、小学生が一七・九冊、中学生は五・一冊と、四年前の五・一冊、二・二冊よりも倍増。また本年度の全国平均と比べても、二倍以上の読書量だった。

増加の要因を学校教育課は「図書館司書を全小中学校に配置し、読書活動の充実が図られた」と分析。〇五年に市読書活動推進計画を策定、〇六年から司書を全校に配置し、本の面白さを伝えようと一人一人に合った本を提供している。具体的には、テーマごとにさまざまなジャンルの本を紹介する「ブックトーク」や朝の「音読書、授業の中での活用など子どもと本をつなぐ活動を積極的に進めてきた。

清原中央小の阿部靖子校長は「子どもたちは学習したことを調べたり、図書室が便利だと実感し始めているようだ」と話している。さらに昨年末、市教委は全体の底上げをするため「市学校図書館運営マニュアル」を策定。本年度内に実践事例集のDVDを全校配布したり、図書フェルを統一して学校間連携に備えるという。同課は「結果に満足せず、司書の専門性を高め、知的な環境をつくってきたい」としている。

2008・1・25 (金)

下野新聞掲載記事から

平成18年4月、宇都宮市内の小・中学校に専任の司書が配置されて以来、子どもたちの読書環境は一気に好転しました。

専任の司書がいることで、図書室が明るくなり、楽しい本の紹介や調べ学習の手助け等、子どもと本を結びつける大きな力となり、子どもたちの読書量は格段に飛躍をしました。『下野新聞』と『学校図書館』から記事をご紹介します。

下野新聞では、平成21年10月から市内の小学生が書いたお薦め本のコーナー「とちぎ子ども文庫」の掲載を始めました。子どもたちと本が繋がった証拠ではないでしょうか。

いまいき
学校図書館

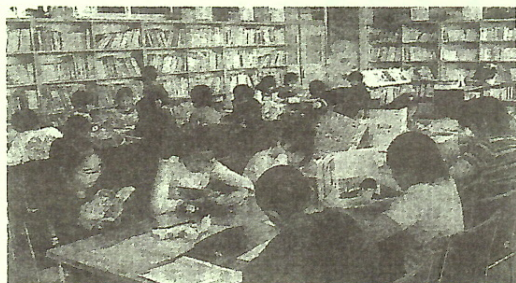
—宇都宮市立清原中央小学校—

1. はじめに

清原中央小学校は、遠くに日光連山を望み、近くに鬼怒川と工業地帯を控えた地に建つ、今年で創立135年の歴史をもつ児童数442名（2008年度）の学校である。本校では「豊かな心をもち、生き生きと学ぶ児童の育成」をめざして読書活動の充実を最重点課題の一つに掲げるとともに、学校図書館が学校教育全般で重要な役割を果たすものと位置づけ、「子どもと本、子どもと人をつなげる学校図書館づくり」を合いことばに、全職員が一丸となって取り組んでいる。

2. 学びを育てる図書館をめざして

本校では、調べ学習等に使える資料を入れた情報ボックスやビデオコーナー、授業と関連させた学習コーナー、市立図書館のコーナー、地域の民話コーナーなど、子どもが学習に取り組むときに多方面からアプローチできる環境づくりに努めている。また「図書館活用に関する各教科・領域の単元題材一覧表（図書館活用年間計画）」を作成して常時掲示している。さらに、司書は市立図書館とも連携して、授業で使える資料や本を準備し、



授業に参画しながら図書の紹介や活用指導など効果的な学習指導へとつなげている。

3. 子どもと本、子どもと人をつなげるために

子どもが読書の楽しさを味わえるよう、本校では朝の読書タイムの実施やボランティア、担任、図書委員会による読み聞かせのほかに、特色ある取り組みとして次のようなことを進めている。

○子どもと先生が選ぶ図書100選…子どもの希望や教職員の意見をもとに選定した本のコーナーを設置し、借りると読書カードにシールをはって奨励し、いろいろな本に親しめるようにしている。

○読書ファイルの作成…読んだ本の記録のみでなく、「お気に入り度」や目標冊数等を書き込めるようにし、読書の糧として活用している。

○ブックトークの実施…学習と関連のある本や子どもの心を豊かにする本を、授業や読書タイムを利用して司書が紹介し、読書の幅を広げている。

○家庭読書の啓発…図書館だよりや、「広げよう・ち・ど・く」をテーマとした親学講習会などで啓発するとともに、保護者貸出も行っている。

4. 終わりに

読書の喜びを読書ゆうびんなどによって友だちに伝えようとしている姿が数多く見られ、本を媒介とした心の交流も深まっている。また、司書との連携を図ることにより、授業の中で子どもはより多くの本や資料に接し、図書館が効果的な情報の収集と課題解決に効果的に活用されている。子どもの1か月の読書量や入館者の割合は確実に増加している。今後とも、図書館が子どもの学習や読書生活にさらに大きな役割を果たしていけるようにしていきたい。（柳井俊子=やない・としこ）

—プロフィール—

データはいずれも2008年度

所在地…〒321-3237 栃木県宇都宮市道場宿町848 面積(座席数)…129㎡(48席) 蔵書冊数…9,846冊 年間予算…69万円 担当者人数…2名(司書教諭1名、学校図書館司書1名) 学級数(全校)…13学級(特別支援学級1を含む) 特色…図書100選、季節の本、巡回図書、学習の本コーナーなどがあり、子どもが訪れて読書に学習に役立つ図書館作りをめざしている。

宇都宮市の司書配置に関する

アンケートから

学校図書館運営に携わる教師、司書の両方から、現在の状況で問題があると感じている点を挙げていただきました。

★司書教諭または図書館担当教諭から

- ・司書の勤務時間が短く、6校時のある曜日には対応できない。児童が学校にいる間、司書が勤務できるよう望む。
- ・司書教諭が担任を兼務しており、授業数も減らされておらず、図書館にかかわる仕事ができにくい。
- ・司書教諭と学校司書との打ち合わせの時間がなかなかとれない。
- ・司書がいてくれて非常に助かっている。もし司書の配置がまだなされていない学校に行ったらと思うと、不安になる。

★学校司書から

- ・生徒数、学級数に対して図書館の面積

が狭い。

- ・書架、机、椅子などの備品を購入する予算が足りない。

・貸し出し冊数のみで実績を評価する傾向があるが、冊数にとらわれるとかえって子どもの読書の質を下げる結果となる。

- ・学校司書は雇用が不安定である。司書業務にやりがいを感じていても、いつまで続けられるか見通しがないので、1年で辞められる方、転職を希望される方が多い。

- ・司書の立場が学校によって違う。
- ・勤務時間外の仕事が多い（勤務時間外に6校時があるため）。
- ・司書教諭との打ち合わせの時間が取れない。
- ・専門職（図書館一人勤務）なので休みが取りにくい。

現場の声を聞く中で、司書教諭は実際問題として図書館の運営にはほとんど関わっていない状況が浮かび上がってきます。

学校図書館に「専門・専任の人を配置してほしい」という活動に関して、あなたの情報・ご意見・ご感想などをお寄せください。



栃木子どもの本連絡会

「学校図書館を考える」プロジェクト

2009年12月 発行

司書との打ち合わせの時間さえ取れないという声が聞かれます。担任を兼務している以上、これ以上のことはできないのもうなずけます。

一方、司書の雇用が短時間勤務、単年度契約の嘱託員としてなされていることから、図書館の運営がどうしても不十分、継続性に欠けることになるのは避けられません。専任の司書教諭、安定雇用の学校司書の両方が望まれます。